

2026 年 8 月の米国株式市場の振り返り（2026 年 9 月配信）

「揺れる世界、進む市場」

市場概況

米国株式市場は 8 月、インフレ懸念の再燃、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策を巡る見通しの変化、中東における地政学的緊張の高まりなど、変動の激しいマクロ環境にもかかわらず上昇しました。同月は、S&P 500 が 3 度にわたり過去最高値を更新したほか、好調な決算を受けてテクノロジー株が大幅に持ち直すなど、材料の多い 1 カ月となりました。一方、月末には、投資家が金利見通しを改めて見直したことから、リスク回避姿勢が強まりました。最終的には、堅調な企業ファンダメンタルズがマクロ面の逆風を上回り、S&P 500 は 8 月に 2.7% 上昇し、年初来の上昇率は 13.1% となりました。

市場の内訳を見ると、相場上昇の裾野は全体として広い状態が続きました。S&P 500 均等加重指数は 2.1% 上昇し、年初来の上昇率は 15.6% となり、時価総額加重の S&P 500 を上回りました。一方、S&P 500 Top 50 は 8 月に 2.9% 上昇したものの、年初来では 6.0% の上昇にとどまり、主要な大型株指数の中で最も低いパフォーマンスとなっています。均等加重指数が S&P 500 および S&P 500 Top 50 の双方を引き続き上回っていることは、市場の上昇が一部の超大型株にとどまらず、より幅広い企業へと広がっていることを示しています。

一方、小型株のパフォーマンスは相対的に低調でした。S&P MidCap 400 は 0.2% 上昇した一方、S&P SmallCap 600 は 0.6% 下落しました。もっとも、こうした短期的な弱さにもかかわらず、小型株は年初来では米国の主要な時価総額別セグメントの中で最も高いパフォーマンスを維持しています。S&P SmallCap 600 の年初来上昇率は 20.8% と、S&P 500 の 13.1% を上回っています。

セクター別・業種別動向

セクター別のパフォーマンスは、商品市場と債券市場の双方の動向から影響を受けました。地政学的緊張の高まりを背景とするエネルギー価格の上昇により、エネルギー・セクター

（+7.0%）がセクター別騰落率の首位となり、年初来の上昇率は 44.2% に達しました。また、貴金属および工業用金属価格の上昇も、素材セクターの 6.0% 上昇に寄与しました。同時に、人工知能（AI）に対する投資家心理の改善とテクノロジー企業の好調な決算を背景に、情報技術セクターも持ち直し、月間で 6.2% 上昇しました。

一方、米国をはじめ世界の主要市場で債券利回りの上昇が続いたことから、金利動向の影響を受けやすいセクターは低調でした。公益事業（-4.8%）と不動産（-1.9%）は、資本財（-2.6%）とともに、パフォーマンスが最も低かったセクターの一角となりました。

こうしたセクター間のパフォーマンス格差は、投資家が AI 主導の成長機会、地政学的リスク、そして金利上昇の影響に注目していたことを反映しています。

ファクター

ファクター別のパフォーマンスには、8 月にリスク選好が再び強まったことが反映されました。景気動向の影響を受けやすい企業や、ベータ値の高い企業へのエクスポージャーが大きい戦略が、総じて良好なパフォーマンスを示しました。S&P 500 High Beta (+4.6%)、Growth (+3.3%)、Momentum (+2.3%) は、ファクター指数の中でも特に高いパフォーマンスとなりました。これは、大型テクノロジー株の回復や、AI 関連企業に対する投資家心理の改善と軌を一にする動きでした。

リスク選好が改善する中、よりディフェンシブな戦略は相対的に低調でした。Low Volatility (-1.8%) は主要ファクター指数の中で最も低いパフォーマンスとなり、GARP (+0.1%)、High Dividend (+0.2%)、Low Volatility High Dividend (+0.6%) も市場全体を下回りました。バリュー志向の戦略はプラスを維持したものの、総じてグロース志向の戦略に劣後し、S&P 500 Value は 2.1% の上昇となりました。総じて 8 月は、7 月に見られたディフェンシブ・ファクターへの資金シフトが一部巻き戻される展開となり、投資家は再びグロース株や景気敏感株へのエクスポージャーを選好しました。

ボラティリティと銘柄間格差

マクロ環境を巡る不透明感が続く中でも、8 月は市場内部の動きがより落ち着いたものとなりました。時価総額の大小を問わず、銘柄間の実現リターン格差（ディスパージョン）は縮小し、実現ボラティリティと銘柄間の相関も低水準にとどまりました。第 2 四半期の決算発表シーズンがほぼ終了したことで、個別企業を巡る不透明感が後退し、銘柄ごとのパフォーマンスのばらつきが縮小する一因となりました。

インプライド指標も、こうした傾向を裏付けました。VIX は月末までに 14.9 へ低下し、個別株のインプライド・ボラティリティとインプライド・ディスパージョンもともに低下しました。Cboe S&P 500 Dispersion Index (DSPX) は 8 月末に 32.5 となり、7 月の水準から大幅に低下しました。これは、投資家が短期的には個別企業のパフォーマンスのばらつきが小さくなると予想していたことを示唆しています。月末にかけて地政学的緊張が高まり、インフレ懸念が再燃したにもかかわらず、市場は企業収益を取り巻く全般的な環境に対して次第に安心感を強め、個別銘柄固有のリスクについても、夏場の早い時期ほど懸念しなくなっていたようです。

関連リンク:

- [U.S. Dashboard August 2026](#)
- [U.S. Sector Dashboard August 2026](#)
- [S&P 500 Factor Dashboard August 2026](#)
- [Dispersion, Volatility & Correlation Dashboard August 2026](#)
- [Daily Market Insights](#)